



社会 宗像 毎月十五日発行 所大 宗像 電話 811-35 福岡県宗像郡玄海町 電話 (0940) 62-1311 定価 一年送料共 1000円

神具・装束 結式用品 株式会社 井筒 福岡店 福岡市博多区東公園(一三二一) 電話 福岡(五)六五一九四五六番 本店 京都市下京区油小路六条北入(一〇〇) 電話 京都(三)三四一三三四番

節分祭斎行

葦矢、桃矢を射て春を迎える



一月三日(土)、恒例の節分祭が祈願殿に於て斎行された。当日は、前日迄降り続いた雨もそのようにおさまり、立春と呼ぶにふさわしい日和となつて祈願殿は、年男をはじめ氏子崇敬者、玄海幼稚園児童等で一杯となつた。

定刻の午前十時、養父宮司以下神職は祈願殿に参進、一鼓の合図により祭典が始められた。修祓の後、養父

宮司より国家・皇室の安泰と氏子崇敬者、国民の災難消除・招福を祈る祝詞が奏上された。次に宮司、続いて出光氏子会長、年男代表として福岡県議員山達生氏、瀧口宗像市長等が玉串を捧げ、本年一年の厄除開運を祈念した。

その後祈願殿正面の石舞台にて、左右二手に別れた神職により、追儺の神事「鳴弦の儀」が執り行われた。双方の神職は、葦矢・

桃矢を射て、春を迎える。地上を三度射て天地の邪気を払い清めた。鳴弦の儀終了後、豆打式が始まり、太田権宮司が先導し「鬼は外、福は内」と第一声を発声、続いて養父宮司以下神職と神子・身についた年男が、短杖・受け・葦矢(一)を階段下で待ち受ける人々に撒き、盛大裡に全ての儀式を終えた。

節分は、四季を分ける日である立春、立夏、立秋、立冬の前日を指しており、特に年の始めである立春の前日は、二十四節気の起点として重視され行事がなされる様になった。

その行事を「追儺」と呼び、「オニヤライ」「ナヤライ」に由来する。一方我が国では、初春に行われる殺物の種を演じる豊作の予祝行事が伝承された。この双方が同化して今日の節分祭の形となり感に行われる様になった。

「豆打ち」は、中国明代の行事が、後に加わったのである。また、「鳴弦の儀」は、表東門(東也)、裏東門(南西)から入り来る。悪鬼邪霊を退散せしめる意味がある。この「節分祭」を境として、神都宗像の地もいよいよ春を迎える事となる。凍えていた樹木の枝先や草花が少しずつ芽吹き出し、やがて小鳥の囀りを耳にしてくるであろう。生命の新しい息吹きを人々が感じ取る事が出来るのも、もうすぐである。

授与品神道とその行方

本紙一月十五日号は一面に「一部を除いて穏やかに一八七六六万人が初詣の見出しで例年のやうに警察庁から発表される入出の数を掲載し、二・三面ではさらに、個々の神社のコメントをも紹介しながら、全国的な今年の初詣状況を詳報した。

本紙読者は、その多くが神職であらうから、この各社のコメントや小見出しをみて、「授与品の頒布数増加」とあるが、我が社ではそれはほとんどなかったな」とか「分散化傾向は七五三同様

全国的な授与品と比べて、さまざまな感想を持たれたことであらう。あるいは「我が社の社頭ではこんなことが感じられたが、新聞には載ってないな」と思はれたことと多々あるのではなかろうか。

「備位」とは言はず「お初穂料」といふやうにとかの言葉遣ひの徹底を指導するのが最後の抵抗となつてしまつてゐる。

「備位」とは言はず「お初穂料」といふやうにとかの言葉遣ひの徹底を指導するのが最後の抵抗となつてしまつてゐる。

「備位」とは言はず「お初穂料」といふやうにとかの言葉遣ひの徹底を指導するのが最後の抵抗となつてしまつてゐる。

「備位」とは言はず「お初穂料」といふやうにとかの言葉遣ひの徹底を指導するのが最後の抵抗となつてしまつてゐる。

「備位」とは言はず「お初穂料」といふやうにとかの言葉遣ひの徹底を指導するのが最後の抵抗となつてしまつてゐる。

授与品とは言はず「お初穂料」といふやうにとかの言葉遣ひの徹底を指導するのが最後の抵抗となつてしまつてゐる。

授与品とは言はず「お初穂料」といふやうにとかの言葉遣ひの徹底を指導するのが最後の抵抗となつてしまつてゐる。

授与品とは言はず「お初穂料」といふやうにとかの言葉遣ひの徹底を指導するのが最後の抵抗となつてしまつてゐる。

授与品とは言はず「お初穂料」といふやうにとかの言葉遣ひの徹底を指導するのが最後の抵抗となつてしまつてゐる。

授与品とは言はず「お初穂料」といふやうにとかの言葉遣ひの徹底を指導するのが最後の抵抗となつてしまつてゐる。

授与品とは言はず「お初穂料」といふやうにとかの言葉遣ひの徹底を指導するのが最後の抵抗となつてしまつてゐる。

授与品とは言はず「お初穂料」といふやうにとかの言葉遣ひの徹底を指導するのが最後の抵抗となつてしまつてゐる。

授与品とは言はず「お初穂料」といふやうにとかの言葉遣ひの徹底を指導するのが最後の抵抗となつてしまつてゐる。

御札

節分祭斎行に際しましては、崇敬者の皆様方より誠心からなる御敬儀を賜り厚く御礼申し上げます。お蔭をもちまして、祭典も無事盛大裡に斎行することが出来まして、ここに紙面をかり、謹んで御礼申し上げます。共に、皆様方の益々の御参来を心より祈念申し上げます。

平成八年二月吉日 宗像大社社務所

宗像大社社務所

宗像大社社務所



第四一六回 宗像大社歌会詠草 大野 展男 選 毎月末日メ切

名古屋 小田 留子 リハビリに院内歩く老の列杖の音のみただひびかせて (詠)「ただひびかせて」のただに老人たちの一途な悲しみがこめられていて、悲しみのこもった一首なるた。

津屋崎 佐々木和彦 落穂夕日の方にころがりて 覗く黄色の蒸籠らさるる (詠)「夕日の方にころがりて」は稚拙ながらも、強い風に吹かれる梅の花のさまを伝へて、ほほえましい。

日里 後藤 君代 みごもれる猫の歩みは静けくて朝の日の差す若ふみゆきぬ (詠)「みごもれた猫の、おのれを旁るようふみゆきぬ」静けくて「若ふみゆきぬ」と、簡明端のにとらえて雰囲気がよく出ている。

河東 薄 かなる 吉光に白きよ今年の初葉は 椿一樹に白き心花咲く (詠)「自分の心に呼びかけるが如く詠んでいる。自動的の作か、いつもながらうまい作品である。

吉留 白木うめの 出陣する手間賃もなき不揃ひの橙々たる一日をかけた (曲) 天野 玲子 外套の雪が白ひつづ集金員は 今日の日を先づ言ひ出しぬ

土穴 瀧口 敦子 冬日照る刈田に葉はくすぶりて風吹くたびに炎のあがる (曲) 朝野 藤井 浩子 泳ぎ終へ充実した心とも揺るる黒髪を見つづ帰るぬ

田野 森 つるの 梅の枝に雨露の玉光りあて 促されしと蕾ふくらむ

自由ヶ丘 細川 穂子 松の枝に華となりて昨夜の 雨光輝く七日正月

徳重 石松や寿子 屈伸のままならぬ親指かばい つつ切りし澤庵切れずつ なる

大島 屋形トミエ 音も無く雨降る丘に春を呼ぶ ぶさまたち梅の古木は霞む

福岡 中村 勇 隙間をくみくじ結べる緋寒桜梢は蕾青くふくらむ

田野 森 甲子 凍りつく寒さの結く母ハウス 一番の花びらきて白し

日里 大和由紀 大翁の公園の芝朝光に硝子の如く輝き初む

鐘崎 安永 久子 玄海冬雪風 風き渡りひとつらなり白波の立つ

ひかりヶ丘 藤原みさを 沈む花朝顔初め髪を梳く 窓のほとりに香りがなる

原町 八波 五月 長袴が初ポイントスを封筒に 分けて弟妹と私も呉れ間に

赤間ヶ丘 松本 澄子 秋の陽にさらさら輝く海の 上着は翼を張ってためたふ

池田 小田 イセ 帰来し大は裏に足踏まれ 声弱々とわれに響く

吉留 高山 信子 年一度輪たつ日わが家に 人ら集まる声かけあいて

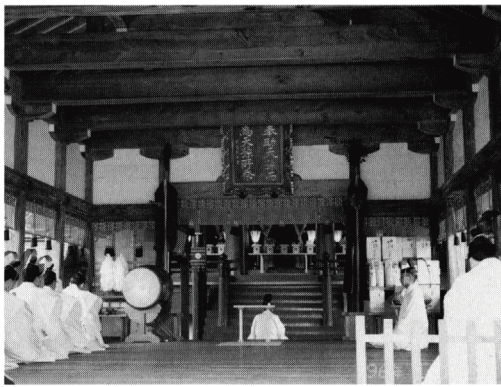
日里 都崎マツヨ 大き液どんと打寄す忘帰洞 湯に浸りつつ日の出待ちわ

宗像大社社務所

宗像大社社務所

献米奉告祭

新年の五穀豊穡、無病息災を祈る



新春の一月十三日(土)、午前十時より、当社恒例の献米奉告祭が、氏子総代多数参列のもと厳粛に斎行された。

献米奉告祭は宗像市郡内の氏子の皆様に奉納いただいた新穀を神前に御供えし、昨年春の大祭に五穀豊穡を祈念、秋には五穀を豊かに実らせたいという宗像大神に感謝申し上げると共に、新年の五穀豊穡、無病息災、家内安全の一年の平穩を祈念申し上げる祭典である。

当日は幸い好天に恵まれ早朝より多くの参拝者で賑わった。

定刻宮司以下神職、氏子奉幣使、氏子総代等参進。

第42回 文化財防火デー

一月二十六日の文化財防火デーに先立ち、初詣の参拝者も落ち着いた同二十四日、当社自衛消防団と、玄海町消防団第一分団との合同訓練が行われた。

防火訓練は、去る昭和二十五年一月二十六日に起きた法隆寺金堂壁面火災の反省に立ち、文化財保護と防火管理体制の意識を高めるために、一月二十六日が「文化財防火デー」と定められた。全国の国宝・重要文化財を要する寺社では、特にこの時期に行われる防火風景である。新聞やテレビ等でも報道され、文化財保護や防火管理体制の強化が図られている。

当社防火設備は、昭和の大造営を機会に従来の防火施設を強化したもので、



設置以来二十数年立ち、各所に老朽化が目立ち、火災による消失の危険性が大きくなった。今回、全面的改修に伴い、まず昨年自動火災報知装置を新たに、今まで多かった誤報も、一秒の内に数回の信号で判断できるようになる装置に入れ替わった。又、ディーゼルエンジンによる防火用ポンプの導入、埋設の配管等、迅速かつ効果的に消火機能を発揮できるようにする消火体制を整える予定である。

しかしながら、初期消火は大切であり、地区の消防本部が消火活動に入る前、少しでも被害が広がるのを防ぐべく、全職員による訓練が毎年行われている。

午前十一時、本殿裏の森から出火の想定で非常ベルが作動すると本殿前に職員が駆けつける。消火指令の「放水はじめ」の合図と共に消火栓や移動ポンプから放水、巫女たちのバケツリレーによる消火活動が始まった。数分後連絡を受けた第一分団が到着、消火活動を開始、約二十分間、本

平成八年元月廿午前零時、浄園の中に庭燎の赤い炎が揺めく深閑とした境内に太鼓の音が響き、神門が開かれた。ここ筑前大島の正月の幕開けである。

中津宮の迎春準備は、師走、十一日に門松が立てられ、大晦日に社殿の装飾、「新春福みくじ」等の準備が、中津宮奉賛会、同翼賛会の奉仕により全て整った。

元旦午前零時、神門が開扉されると、村内氏子を始め正月を故郷で過ごす里帰りした人々が神前に殺到、今年の平穏と海上安全、大漁満足を祈念、社頭は、御守り、破魔矢、福迎え等の縁起物を受ける参拝者に加え、神門脇廻廊に設けられた「新春福みくじ」授与所にも長い列が続き、今年の福運を授かるという人々で賑わった。

「新春福みくじ」は城山家具・東郷自動車整備場・JA大島支所等の協賛により

宗像郡内の漁業関係者で構成される当社海洋神事奉賛会の平成八年初会合が去る一月二十七日に当社で行われた。

正午に役員が本殿に参集、奉賛会を代表して、漁業関係者から、宗像大社海洋神事奉賛会が昨年一年の海上安全・漁業繁栄を祈念する祭典を執行し、引き続き斎館にて会議が開かれた。

先ず、養父宮司が昨年の当大社神事行事に対しての御礼を述べ、今年も「みあれ祭」等、諸行事に対し、一層盛大に執り行える様に会員各位への協力をお願いした。

又、花田正武海洋神事奉賛会会長により、宗像大社の諸行事に対し、会員一同全面的に協力して行く旨、御挨拶を頂いて、議事へと移った。

先ず、毎年恒例の宮中へ

宗像郡内の漁業関係者で構成される当社海洋神事奉賛会の平成八年初会合が去る一月二十七日に当社で行われた。

正午に役員が本殿に参集、奉賛会を代表して、漁業関係者から、宗像大社海洋神事奉賛会が昨年一年の海上安全・漁業繁栄を祈念する祭典を執行し、引き続き斎館にて会議が開かれた。

先ず、養父宮司が昨年の当大社神事行事に対しての御礼を述べ、今年も「みあれ祭」等、諸行事に対し、一層盛大に執り行える様に会員各位への協力をお願いした。

又、花田正武海洋神事奉賛会会長により、宗像大社の諸行事に対し、会員一同全面的に協力して行く旨、御挨拶を頂いて、議事へと移った。

先ず、毎年恒例の宮中へ

宗像郡内の漁業関係者で構成される当社海洋神事奉賛会の平成八年初会合が去る一月二十七日に当社で行われた。

正午に役員が本殿に参集、奉賛会を代表して、漁業関係者から、宗像大社海洋神事奉賛会が昨年一年の海上安全・漁業繁栄を祈念する祭典を執行し、引き続き斎館にて会議が開かれた。

先ず、養父宮司が昨年の当大社神事行事に対しての御礼を述べ、今年も「みあれ祭」等、諸行事に対し、一層盛大に執り行える様に会員各位への協力をお願いした。

又、花田正武海洋神事奉賛会会長により、宗像大社の諸行事に対し、会員一同全面的に協力して行く旨、御挨拶を頂いて、議事へと移った。

先ず、毎年恒例の宮中へ

宗像郡内の漁業関係者で構成される当社海洋神事奉賛会の平成八年初会合が去る一月二十七日に当社で行われた。

正午に役員が本殿に参集、奉賛会を代表して、漁業関係者から、宗像大社海洋神事奉賛会が昨年一年の海上安全・漁業繁栄を祈念する祭典を執行し、引き続き斎館にて会議が開かれた。

先ず、養父宮司が昨年の当大社神事行事に対しての御礼を述べ、今年も「みあれ祭」等、諸行事に対し、一層盛大に執り行える様に会員各位への協力をお願いした。

又、花田正武海洋神事奉賛会会長により、宗像大社の諸行事に対し、会員一同全面的に協力して行く旨、御挨拶を頂いて、議事へと移った。

先ず、毎年恒例の宮中へ

宗像郡内の漁業関係者で構成される当社海洋神事奉賛会の平成八年初会合が去る一月二十七日に当社で行われた。

正午に役員が本殿に参集、奉賛会を代表して、漁業関係者から、宗像大社海洋神事奉賛会が昨年一年の海上安全・漁業繁栄を祈念する祭典を執行し、引き続き斎館にて会議が開かれた。

先ず、養父宮司が昨年の当大社神事行事に対しての御礼を述べ、今年も「みあれ祭」等、諸行事に対し、一層盛大に執り行える様に会員各位への協力をお願いした。

又、花田正武海洋神事奉賛会会長により、宗像大社の諸行事に対し、会員一同全面的に協力して行く旨、御挨拶を頂いて、議事へと移った。

先ず、毎年恒例の宮中へ

大島の正月

島内は老若男女で賑う

「新春福みくじ」授与所にも長い列が続き、今年の福運を授かるという人々で賑わった。

「新春福みくじ」は城山家具・東郷自動車整備場・JA大島支所等の協賛により

宗像郡内の漁業関係者で構成される当社海洋神事奉賛会の平成八年初会合が去る一月二十七日に当社で行われた。

正午に役員が本殿に参集、奉賛会を代表して、漁業関係者から、宗像大社海洋神事奉賛会が昨年一年の海上安全・漁業繁栄を祈念する祭典を執行し、引き続き斎館にて会議が開かれた。

先ず、養父宮司が昨年の当大社神事行事に対しての御礼を述べ、今年も「みあれ祭」等、諸行事に対し、一層盛大に執り行える様に会員各位への協力をお願いした。

又、花田正武海洋神事奉賛会会長により、宗像大社の諸行事に対し、会員一同全面的に協力して行く旨、御挨拶を頂いて、議事へと移った。

先ず、毎年恒例の宮中へ

宗像郡内の漁業関係者で構成される当社海洋神事奉賛会の平成八年初会合が去る一月二十七日に当社で行われた。

正午に役員が本殿に参集、奉賛会を代表して、漁業関係者から、宗像大社海洋神事奉賛会が昨年一年の海上安全・漁業繁栄を祈念する祭典を執行し、引き続き斎館にて会議が開かれた。

先ず、養父宮司が昨年の当大社神事行事に対しての御礼を述べ、今年も「みあれ祭」等、諸行事に対し、一層盛大に執り行える様に会員各位への協力をお願いした。

又、花田正武海洋神事奉賛会会長により、宗像大社の諸行事に対し、会員一同全面的に協力して行く旨、御挨拶を頂いて、議事へと移った。

先ず、毎年恒例の宮中へ

宗像郡内の漁業関係者で構成される当社海洋神事奉賛会の平成八年初会合が去る一月二十七日に当社で行われた。

正午に役員が本殿に参集、奉賛会を代表して、漁業関係者から、宗像大社海洋神事奉賛会が昨年一年の海上安全・漁業繁栄を祈念する祭典を執行し、引き続き斎館にて会議が開かれた。

先ず、養父宮司が昨年の当大社神事行事に対しての御礼を述べ、今年も「みあれ祭」等、諸行事に対し、一層盛大に執り行える様に会員各位への協力をお願いした。

又、花田正武海洋神事奉賛会会長により、宗像大社の諸行事に対し、会員一同全面的に協力して行く旨、御挨拶を頂いて、議事へと移った。

先ず、毎年恒例の宮中へ

宗像郡内の漁業関係者で構成される当社海洋神事奉賛会の平成八年初会合が去る一月二十七日に当社で行われた。

正午に役員が本殿に参集、奉賛会を代表して、漁業関係者から、宗像大社海洋神事奉賛会が昨年一年の海上安全・漁業繁栄を祈念する祭典を執行し、引き続き斎館にて会議が開かれた。

先ず、養父宮司が昨年の当大社神事行事に対しての御礼を述べ、今年も「みあれ祭」等、諸行事に対し、一層盛大に執り行える様に会員各位への協力をお願いした。

又、花田正武海洋神事奉賛会会長により、宗像大社の諸行事に対し、会員一同全面的に協力して行く旨、御挨拶を頂いて、議事へと移った。

先ず、毎年恒例の宮中へ



年同様行われ、中津宮参拝別賞も用意され、正月の楽しみとなった。福みくじは約七百本が準備されたが、元旦午前中に全てが授与され大変人気であった。

一日には、全国に先がけ成人式が行われた。今年の新人八名を始め、杉田村長、父兄等関係者多数参列する中、成人祭を斎行、大人の仲間入を祝った。

雨「これはまずいぞ」と思った。何故かと言うと、雨の日や風の日は石箱に新たに設置した扉を、全部閉じてしまおうからである。これは文化財保護からも考えの閉鎖措置という。莫高窟事務所に連絡を入れるが要領を得ない。心配しながらも取り合えず行くことにする。

昨日の疲れからか、皆目覚めが悪く、三十分遅れの八時三十分に着いた。車をフンストップ状態で飛ばし、九時に着いた。

やはり雨が少ない地方という訳か、莫高窟の辺りは水たまりもあつたが、日が射しており入場は「可」で大安心であった。この辺り昨日は雨が降り、窟は閉鎖していたことであつた。我々には本日は「大吉」と出たように感じられた。

敦煌周辺には他に西千仏洞、安西の榆林窟と三洞が集中しているが、中でも敦煌から東南二十五キロの鳴沙山東麓に、一、六キロに亘って掘られた莫高窟の窟は最大規模を誇っている。また保存状態も非常にいい所で、今も修理工事が続いている。

平凡社刊「世界考古学事典(一九七九)」によると、莫高窟は魏窟三、隋窟一、唐窟四七、五代窟三〇、宋窟四五、元窟八、不明八の総計四九一窟と記録されている。現在も調査と補修が続いており、岩窟の数が製作年代に多少の差があるやうである。この一帯は、黄土と砂礫

一誌一話 (49)

中国調査紀行(12)

樂 杏 子

八月十二日(金) 今日石窟寺院で名高い「敦煌の莫高窟(千仏洞)へ行く日である。

起きぬけに外を見ると小雨「これはまずいぞ」と思った。何故かと言うと、雨の日や風の日は石箱に新たに設置した扉を、全部閉じてしまおうからである。これは文化財保護からも考えの閉鎖措置という。莫高窟事務所に連絡を入れるが要領を得ない。心配しながらも取り合えず行くことにする。

昨日の疲れからか、皆目覚めが悪く、三十分遅れの八時三十分に着いた。車をフンストップ状態で飛ばし、九時に着いた。

やはり雨が少ない地方という訳か、莫高窟の辺りは水たまりもあつたが、日が射しており入場は「可」で大安心であった。この辺り昨日は雨が降り、窟は閉鎖していたことであつた。我々には本日は「大吉」と出たように感じられた。

敦煌周辺には他に西千仏洞、安西の榆林窟と三洞が集中しているが、中でも敦煌から東南二十五キロの鳴沙山東麓に、一、六キロに亘って掘られた莫高窟の窟は最大規模を誇っている。また保存状態も非常にいい所で、今も修理工事が続いている。

平凡社刊「世界考古学事典(一九七九)」によると、莫高窟は魏窟三、隋窟一、唐窟四七、五代窟三〇、宋窟四五、元窟八、不明八の総計四九一窟と記録されている。現在も調査と補修が続いており、岩窟の数が製作年代に多少の差があるやうである。この一帯は、黄土と砂礫

とが混在している丘陵地帯で、なお一層隆起して出来た礫岩の山の岩肌を、蜂が巣を作った様に、大小様々な洞穴が掘り廻されている。石窟を眼前に見るとやはり壯麗であつた。これは全て仏窟洞である。

莫高窟は全長一、六キロからなる。南区一、〇キロ北区〇、六キロに区分され上下は三、四層に掘り分けられていた。最高地は地上四〇メートルの高さを超えている。全ての窟を公開している訳ではないが、時代ごとに数窟ずつ分類して公開しているようである。

莫高窟の四九一窟の石窟は、六世紀(南北朝時代)から一六世紀(明代)までの約一〇〇〇年の間、長い年月に亘って岩肌に洞を掘り続けられてきている。内部には彩色塑像の仏像を安置し、壁面には隙間などを利用して動物植物などの生き物、人間の社会の人々の生活、人々を取り巻く事柄などの絵が繊細に描かれていた。

今回の莫高窟行も残念であつたのは、私の目的の一つでもあつた一五九号の窟が見つからなかったことである。何故なら一五九号の窟壁には、沖ノ島出土の金銅製龍頭及びその出土地である古代の祭場(五道跡)、時代判定に役立つ、酷似している龍の絵が描かれているのである。

今回は、今回見ることが出来た中国南北朝時代の他の石窟に描かれた龍の絵を述べる。

第三十九回 宗像マラソン大会



今年で三十九回目を数える恒例の宗像マラソン大会(主催:宗像市・宗像市体育協会、後援:宗像大社他)が一月十一日(日)に開催され、一〇〇人余りのランナーが新春の宗像路で健脚を競った。
この大会は、地方マラソン大会の草的存在であるばかりでなく、新人ランナーの登竜門として有名である。大会は10km・5km・3km

- 尚各部の入賞者・記録は左記の通りである。
- 【3kmの部】
- 男子中学生
 - 一位 藤山 雄浩(春日市) 9分11秒
 - 二位 八尋 裕輝(粕屋東) 9分16秒
 - 三位 田川 大輔(友成中) 9分18秒
 - 女子中学生
 - 一位 白石 瞳(友成中) 10分32秒
 - 二位 姫野 智絵(城山中) 10分32秒
 - 三位 樽原 麻里(藤原中) 10分39秒
- 【5kmの部】
- 高校生男子
 - 一位 徳淵 諭(飯塚高) 15分18秒
 - 二位 鬼塚 智徳(浮羽高) 15分18秒
 - 三位 古賀 剛(大塚高) 15分21秒
 - 一般・学生男子の部
 - 一位 横江 保広(養老中) 15分39秒
- 【10kmの部】
- 一位 武下 靖(タイエ) 29分57秒
 - 二位 今津 淳一(福岡県警) 30分14秒
 - 三位 板橋 雅幸(クロサキ) 30分18秒



新出光初午祭

福岡市の新出光(代表取締役社長出光豊)本社ビル屋上に鎮座する稲荷神社に初午祭が、去る二月六日、当社より太田権吉司以下神職二名出向奉仕のもと肅行された。
当日は、強い寒気の流れ込みにより厳しい寒風の中で厳格な儀式となった。
午前十一時、社屋上に鎮座する稲荷神社前に参列者約百名、開式の厳格な儀式、献饌の儀とつづき、齋主太田権吉司による(新出光外開連会社の社業繁栄、安全と社員幸福を願う)祝詞が奏上された。齋主の玉串拝礼につづき、出光豊社長が参列者を代表

して玉串拝礼を行った。次に太田権吉司以下参員は隣に鎮座する宗像神社に拝礼。つづいて稲荷神社前にて太田権吉司発声による神酒拝戴の儀が行われ、参列者一同神酒を戴き祭典は滞りなく終了した。
初午の行事は、京都伏見稲荷神社の御祭神が、山上三ヶ峰にお降りになったのが、和同四年(十一月一日)といわれ、その日が初午であったと縁日になったといわれている。
今年も、二月三日節分の日、丁度初午の日にあたり、早春の陽気を誘うため、たい年となった。

梅花散る風景

境内の紅白梅が心字池の水面に舞い散る、吹く風にも春の匂いがある、小雪の如く舞う花びらは春の使者である。
うめ「梅」を辞典に見ると次の様にある。
バラ科サクラ属の落葉高木。ウメははじめ烏梅(うばい)を薬用に中国からとりよせ、ウメと呼んだのが語源だとする。
のう。まは、
(ウ)は美で、
熟実(うむみ)の意味だ、という新井白石の説。
(ウ)は接頭語、(メ)は梅の韓音だとする松岡静雄の説などいろいろある。
ウメの原産地は中国の四川・湖北と考えられているが、日本の南部・台湾にも原生していたとの説もある。はじめてウメが日本の

社務日誌抄

- 一月一日 元旦祭
- 九州旅客鉄道(株)代表取締役社長石井孝孝氏他四十二名参拝
- (社)宗像青年会議所理事(長安水修二氏他十五名)参拝
- 一月二日 新年祭
- 一月三日 元始祭
- 一月四日 出光興産(株)取締役福岡支店長宮下佳廣氏・九州燃料(株)代表取締役有馬健一郎氏・筑紫興産(株)代表取締役内田健蔵氏・出光石油化学(株)福岡支店長前田武彦氏・アポロラピス(株)福岡営業所々長笠原富夫氏・出光エンジニアリング(株)福岡営業所々長近藤明敏氏他十八名参拝
- 一月五日 新出光・新出光不動産(株)代表取締役社長出光豊氏他五十九名参拝
- 山崎製パン(株)福岡工場長村上知義氏他五〇名参拝
- 一月六日 西鉄電設(株)伊藤環境グリーン(株)・福岡観光(株)・日本トランスシステム(株)・平成建設(株)・南チン建設・J.R.徳山業務センター(株)等参拝
- 一月七日 西九大運送(株)・宮田若宮地区安全運転管理者協議会・南龍運輸・若久自治連合会・(株)九州組並立工組協力会・九州共立大硬式野球部・中間トヨ一住器(株)等参拝
- 一月八日 出光興産(株)取締役相談役大和勝氏他五名参拝
- 一月九日 出光興産(株)情報システム部取締役部長三熊克人氏他三名参拝
- 一月十日 出光興産(株)クボタグループ九州・(株)ホンダエクスプレス九州営業所・日立建機(株)九州営業所・日鉄工業(株)川崎交通安全協会等参拝
- 一月十一日 出光興産(株)取締役役務計画部長幸村基士氏他一名参拝
- 一月十二日 出光興産(株)出光ビルエーエスエフ(株)代表取締役社長市野活氏他一名参拝
- 一月十三日 出光興産(株)代表取締役社長市野活氏他一名参拝
- 一月十四日 出光興産(株)代表取締役社長市野活氏他一名参拝
- 一月十五日 月次祭・成人祭
- 一月十六日 出光興産(株)代表取締役社長長谷川正一氏他一名参拝
- 一月十七日 出光興産(株)代表取締役社長長谷川正一氏他一名参拝
- 一月十八日 出光興産(株)代表取締役社長長谷川正一氏他一名参拝
- 一月十九日 出光興産(株)代表取締役社長長谷川正一氏他一名参拝
- 一月二十日 出光興産(株)代表取締役社長長谷川正一氏他一名参拝
- 一月二十一日 出光興産(株)代表取締役社長長谷川正一氏他一名参拝
- 一月二十二日 出光興産(株)代表取締役社長長谷川正一氏他一名参拝
- 一月二十三日 出光興産(株)代表取締役社長長谷川正一氏他一名参拝
- 一月二十四日 出光興産(株)代表取締役社長長谷川正一氏他一名参拝
- 一月二十五日 出光興産(株)代表取締役社長長谷川正一氏他一名参拝
- 一月二十六日 出光興産(株)代表取締役社長長谷川正一氏他一名参拝
- 一月二十七日 出光興産(株)代表取締役社長長谷川正一氏他一名参拝
- 一月二十八日 出光興産(株)代表取締役社長長谷川正一氏他一名参拝
- 一月二十九日 出光興産(株)代表取締役社長長谷川正一氏他一名参拝
- 一月三十日 出光興産(株)代表取締役社長長谷川正一氏他一名参拝

梅花散る風景 (続)

とが古今集の歌中サクラ百三十余首で知れる...と記さ
安朝に入つて流行行がウメからサクラに移つたこととある。
ともあれ、神苑に梅樹は多い。舞う花びらが空を這つて暖かいのは、春待つ気持だろつか、池水下の魚影も日々速くなり、時々水音高くシブキを上げる季節となつた。春よ来い、早くこい!

宗像大社歌会
俳句作品集 三五五

福間 森 清
屠蘇酒に寝る子に狭き部屋
とるる

福間中央 山下しづえ
実のなるを楽しく待つや銀
杏の木

福岡中央 力丸 玄風
放心の小春日風が光りけり

自由ヶ丘 細川 絹子
朝の日に匂ひにじみて筆始
め

若松 高橋 忠實
元朝の晴着姿や梅日和

日里 花田いつ枝
放つ矢に泣き返る寒の雨

藤沢 井上 玄洋
春近し風に輝く町の屋根

津屋崎 井浦 良介
若布刈る黒つむ潮に逆いて



(続)

宗像大社歌会
俳句作品集 三五五

103

パプアニューギニアの旅 (四)

いししいただし

降下するヘリから地上を
見ると、村落の端の空地に
ここがヘリ着陸の場である。



ゲラウンにて

ヘリはものすごい土砂やゴ
ミを舞い上げながら、少し
ずつ降下していく。

大勢の人が集まっている。
広塚忠夫氏(日本野鳥会)
によれば五百人前後という
恐らく周辺の村落からも
伝え聞いて見物にやって来
た人達もあろう。

ヘリは白線の下に着陸、
ヘリから降りると、荷物を
受け取り、近くの家の横に
集まり、好奇の目で見てい
る。子供たちは私達と目が
合うと、白い歯を見せて笑
っている。

パプアとは縮毛の意で、
アフリカのギニアに対して
新しいギニアとつけられた
のである。皮膚の色は真っ
黒の黒褐色。
ヘリは村落の荷物を慌た
だしく積み込むと、飛び立っ

ていた。ヘリが小さくなり
視界から消えると、不安な
気持ちになった。とうとう
千六百メートルのゲラウン
に降下した。

私達五人は、村の入口付
近に案内され、横に並ぶと
村の方から二人が竹を背負
後から子供、女性が一人ず
つ、男性二人がレイを持っ
て並んだ。

歓迎の儀式であろう。何
を言っているのか、全然分
からないが、多分「よんこ
そ速い国から、はるばるこ
られ、我々は皆様方を歓迎
する。どうぞゆっくりして
いて下さい」と言ったか
らだろうか?

終わると一人ずつレイを
首にかけられた。村の方
から男女の一団約二十名(男
十三、女七名)が横太鼓
バンドウという。細長い
筒状で中央部がくびれ、把
手がつき、片面にヘビカト
カゲの皮を張ってある。片
手で持ち、もう一方の手で
打奏する。叩きながら、
体をやがやがめ、踊り、
時折り喚声をあげながら近
づいてくる。

頭に極楽鳥の羽飾り、首
並んで、あらかじめ予定さ
らされていた踊り手の五人から
一人ずつ、野豚の牙の首飾
りや「戦士の飾り物」、ジュ
スタマの首飾りのプレゼント
を受けた。我々も持参し
た物をプレゼントした。歓
迎と贈物の交換が終わると、
広場の中央に村の聖地
キリスト教の牧師、現地
人)が出てきて、聖書を手
に神に祈り説教をした。終
わると、村人が答辞を持って
座すと、村人や見学者の中
から十数人が献金をしてい
た。私達も役に立ってもら
えればという気持ちで献金
をした。

私達の宿舎は、比較的最近
建てられた家が軒用意
された。床の高さは一メー
トル前後で、二室からなり、
屋根は草(ヤシ科も含む)
で壁や床はすべて、竹を押
しつぶして平たくしたのも
で斜斜に覆われている。
通風はよく快適である。便
所は家から十メートルぐら
いのところに新しく作られ、
地面に深く穴を掘り、竹壁
で屋根、周りを囲って小屋
状にして、戸をつけられてい
た。なにかと用意がされた村
人の心遣いが感じられた。

は途中できつと用が出来、
遊んでいる様な気がし、見
た様な気がした。と云って
も後で、そう云えばと気が
ついた程であった。そして、
その時は考えるともなく近
家のAという子供の仕草が
脳裡に走った様に思えた。
牛を放ち、牛の満腹を待
ち、孫十氏とフデは牛を引
いて少し早めに出かけたが、
孫十氏はフデが途中から姿
を消していた事に全然気が
つかなかった。てっきり
これもまた無言で牛の後に
黙々と追従して行っているが
当然の事の様で歩いてい
た。

我が家について安堵で、
孫十氏ははるか昔のびをし
「アー、アー、ウーン」とな
り、ひょいと後を見て初め
てフデのいないのに気付い
た次第であった。
それでも人の良い孫十氏

は五歳の子供位で、長い爪

古くは神

(20)

半岩隆平露天祭祀に
供えられた品々

沖ノ島祭祀の第三段階の
時期にあたる、七世紀後半
の頃の日本は、大和朝廷
による統一国家も広がって
増えつつある。そこで新
しい文化の導入と社会構造
の改進黨を目的として、新
たに中国大陸へと交流を求
めて行っていたわけである。こ
れが六三〇年の第一回遣唐大



使から始まり、約二五〇年
の水きに巨り続く遣唐使の
派遣である。
初期の遣唐使船は、朝鮮
半島西側の海黄海を海岸に
沿って北上し、大陸の遼東
半島へと進む航路であった
とされている。
この頃我が国は六四五
新(天化元)年に「大化の改
新」が起り、律令制度も

以上の様な情勢のなかで早
くも六一八年には中国大陸
は唐王朝により統一国家が
つづられており、七世紀の
後半代にはすでに唐王朝の
隆盛をみた頃である。
この様な状況における沖
ノ島の祭祀は、祭祀形態に
よる変化だけでなく、その
祭品奉獻品にも大きな変化
が表われてきている。
その第一は、岩陰祭祀の
奉獻品の中心でもあった、
朝鮮新羅製の青葉・雲珠等
で知られる豪華な馬具類が
完全になを消していったこ
とである。これに変わって
新しく奉獻されてきた品々
が中国製である。
この現実をみると外交交
渉の相手国が、朝鮮半島か
ら中国大陸へと変更変わっ
たことを物語っている。
第二は奉獻品が雛形化
してきたことである。また
種類も多くなり金銅製品と
してきていることである。
半岩隆平露天の祭祀は短
期間の祭祀形態である。こ
れは祭祀対象物と言わ、
神々の依代としての祭祀が
移行していく過渡期的な状
態の祭祀形態である。この
頃から急激に奉獻品も金銅
製の雛形品へと変形してい
く。
ここで五号祭場の奉獻品
の主な物を列記してみる。
実用品 金銅製龍頭・唐
三彩長頸壺・須
車器類
雑器類 金銅製五弦琴・
金銅製人形・金
銅製容器・鉄製
儀鏡・滑石製玉
類

(松)